

平成30年度

熊本中央高等学校

一般入学者選抜学力検査問題

国 語

時 間 50分

平成30年2月14日実施

注 意

1. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
2. チャイムに従って、開始及び終了しなさい。
3. 終了のチャイムが鳴ったら、問題を机上の右に、
解答用紙を左に置いて待ちなさい。
4. 試験監督に用がある場合は、黙って挙手しなさい。

一
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いうまでもなく、世界中のいたるところで多くの生物が絶滅している。日本でもトキがついに絶滅し、イリオモテヤマネコもその道を辿りつつある。そこでそれらのDNAを保存し、クローン技術によって蘇らせるという手法がケントウされるようになった。

羊のドリーが誕生した時、私が真っ先に思い浮かべたのも、そういうことだった。これで貴重な動植物を失わなくて済むと思った。うまくすれば、古代の生物を復活させられるかもしれないと夢想した。実際、マンモスを作りだそうとしている研究者がいる。シベリアで氷づけになっている化石からDNAを取り出してクローンを作るわけだ。状態のいいDNAを見つけるのは困難だろうが、技術的には十分に可能なことである。

それらの研究にけちをつける気はないし、オウエンしたい気持ちがないわけでもない。しかし絶滅種が蘇った後のことを空想しても、あまり浮き浮きとした気分にはならない。むしろ割り切れない気持ちのほうが強い。

復活したクローン生物たちはどのように扱われるのだろうか。もう二度と絶滅しないよう、人間の手によって大切に保護されるのか。A、「その気になればいくらでも作りだせるから」という理由で、使い捨てされるのだろうか。いずれにしても、その光景はあまり愉快なものではない。後者の場合はいうまでもないが、前者の場合においてもだ。日本産最後のトキが保護センターで飼育されていた光景には、もの悲しさがタダヨっていたように思う。

我々が失ったものはトキそのものだけではない。トキが十分生息できる環境がまず滅んだのだ。イリオモテヤマネコの絶滅を恐れるのは、珍しい動物が消えるのが悲しいからだけではなく、彼等がひっそりと暮らしていけるような貴重な環境が、また一つこの世界からなくなってしまおうのを受け入れたくないからだ。

仮に彼等を復活させられたとしても、彼等が生息できた小世界は滅んだままだ。それで彼等を救ったことになるのか。彼等はそれぞれの小世界のシンボルにすぎず、それだけを蘇らせたとしても、失ったものを取り戻したことになるらない。

B、^⑤張本人は我々人間だ。乱獲、生息地の破壊、家畜との接触などが、^注有史以後に起きた絶滅の主な原因である。

C 人間が責任をとるとしたら、彼等から奪った小世界を、まず元に戻さねばならない。**D** そんなことは可能だろうか。技術的には不可能ではないかもしれないが、^⑦それをするには人間たちが描く未来図を変える必要がある。

人間は自分たちの繁栄を最優先させるという前提で、いくつかの選択を行ってきた。他の生物の聖地を破壊してきたのも、そうした選択の結果だ。つまり環境を蘇らせるということは、自分たちの繁栄を最優先しない、というふうの方針転換することを意味する。そんなことに、一体どれだけの人が同意できるだろうか。

(東野圭吾『さいえんす?』より)

注 有史 …… 歴史で文字による記録のあること。

問一 二重線部ア～オのカタカナは漢字に直し、漢字には読みを付けなさい。

問二 空欄A～Dに入る適語を次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア だが イ もちろん ウ むしろ エ つまり オ それとも

問三 傍線部①「トキがついに絶滅」とありますが、それはどうしてですか。その理由を「から」に続くように本文中から十五字で抜き出して答えなさい。

問四 傍線部②「前者」とはどのようなことですか。その内容として適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 絶滅種を蘇らせた後に使い捨てにすること。

イ クローン技術でマンモスを蘇らせること。

ウ 絶滅しそうな生物のDNAを人間が保存すること。

エ クローン生物を大切に保護すること。

問五 傍線部③「シンボル」の意味として適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 象徴 イ 幻覚 ウ 実像 エ 印象

問六 傍線部④「失ったもの」とは何ですか。本文中から七字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部⑤「張本人」とは、「物事の起こるもをつくった人」という意味ですが、我々人間は何の「張本人」なのですか。二十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部⑥「絶滅」とありますが、その原因は何ですか。十五字程度で答えなさい。

問九 傍線部⑦「それ」とありますが、「それ」の指示内容を二十五字以内で答えなさい。

問十 傍線部⑧「人間たちが描く未来図を変える」とありますが、これと同じ内容を本文中より三十字以内で抜き出して答えなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

入学式の当日、高校一年生の甲町源太郎はある一匹の犬を拾う。この犬がきっかけてワンダーフォーゲル部に入部することになった源太郎は、犬をワンダーと名づけ、飼ってくれそうな人が見つかるまでと、部長の三上、滝、角田と部室にワンダーを隠していた。入学式から二日目、顧問の大地先生にワンダーのことを知られた四人は、先生に相談を持ちかける。

「とにかく、今夜だけは見逃してもらえませんか」三上が言った。「甲町の家は犬が飼えないっていうし、ワンダーは泊まる所がないんです」

「ワンダー？」先生は犬と部長を見比べた。「この犬、ワンダーっていうのか」

「へへ、昨日命名したんです」角田が朗らかに言った。「ワンゲルっぽくていい名前でしょ」

滝や三上や源太郎も先生に笑顔を向けた。どうか先生をその気にさせようと、四人の部員が無言のうちにダンケツしていた。

① そんな気配を察してくれたのか、先生はやがて口を開いた。

「部室棟の管理は生徒の自主性に委ねるってのが学校側の建前だ」^②にやりと口元を歪め、部員たちを見回す。「俺だっ
て部室の中のことまで口出しはしない方針だし、お前たちがうまいことカクしてたから、犬がいるなんてことは今だっ
て気づいてない」

他ならぬワンダーの頭を撫でつつ、とぼけた声で言っているのける。^③部員たちは思わず歓声を上げかけたが、先生はそれを制止するように片手を上げた。

「ただし、このままなし崩しに部室で餉ちまおうってのは感心しないな」ぴしゃりと厳しい口調だった。「餉うなら餉うで、きちんとお偉いさんに話を通すんだ」

「話を通すというと……」源太郎が尋ねた。「どうやればいいんでしょう？」

「そんなことまでは知らん」先生はきっぱり言った。「やり方は自分たちで考えろ」

椅子から立ち上がり、ワンダーを缶の寝床に移す。それで話は終わりだというように、今日の活動内容についての話題になった。

まずは体育館の隣にあるジムで筋力トレーニング、その後で合宿後の整理をかねて備品の確認。明日の入部説明会にジサンする装備や資料は今日のうちにザックにパッキングしておき、ついでに新入部員の甲町にも使い方やら何やらを教えてやる。——そんなことを確認し終えると、先生はこれで帰ると言い出した。

「今日は四時から職員会議でな。後のことは任せた」

最後にワンダーを一撫でして部室を出ていこうとする。源太郎はその背中に声をかけた。

「職員会議で、ワンダーのことを頼んでいただくのは無理ですか？」

「分かってねえなあ」先生は首をフツッた。「俺に頼るんじゃないやなくて、やるならお前たち自身の力でやらなきゃ駄目だと言ってるんだ」

「……………」

そう言われても、源太郎には何をどうしていいのか分からない。先生にもそれは伝わっているようだったが、それでも甘い言葉はかけてもらえなかった。

「権利とか自由ってのは、誰かから貰うものじゃない。闘って勝ち取るものだ」

両手をジャケットのポケットに突っ込み、大地先生はわざと気障きざぶって言った。その言葉を残し、のんびりとした大股で去っていったのである。

(竹内 真『ワンダードッグ』より)

問一 二重線部アゝオのカタカナは漢字に直し、漢字には読みを付けなさい。

問二 傍線部①「そんな気配」とありますが、その内容として、適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア ワンダーを今後、学校側には内緒にしてもらおうこと。

イ ワンダーを飼えるよう、甲町の親に頼んでもらおうこと。

ウ ワンダーを一晩、部室に泊めるのを許してもらおうこと。

エ ワンダーを部員の一人として飼うのを認めてもらおうこと。

問三 傍線部②「にやりと口元を歪め、部員たちを見回す」とありますが、このときの先生の気持ちとして、適切な

ものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア それとなく教えてやろうという気持ち。

イ 幼さをからかおうという気持ち。

ウ 校則違反をとがめようという気持ち。

エ 無理だとわからせようという気持ち。

問四 傍線部③「部員たちは思わず歓声を上げかけた」とありますが、なぜ歓声を上げかけたのですか。説明しなさい。

問五 傍線部④「なし崩し」という言葉の意味として適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 正式な手続きをして、真実を少しづつ積み上げること。

イ 正式な手続きを経ず、自分の意見を無理やり通してしまうこと。

ウ 正式な手続きを経ず、本当の事実を少しづつ積み上げること。

エ 正式な手続きをして、現実に向き合うことを続けること。

問六 傍線部⑤「やり方」とありますが、ここでの「やり方」を本文中から「こと」に続くように十字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部⑥「甘い言葉はかけてもらえなかった」とありますが、生徒は先生にどんな言葉をかけてもらいたいと思ったのですか。セリフを考えて答えなさい。

問八 この文章において、先生はどのようなことを教えようとしていたのですか。本文中の言葉を用いて答えなさい。

三

次の詩とその鑑賞文を読んで、後の問いに答えなさい。

僕は地平線に飛びつく

僅わずかに指さきが引かなかった

僕は世界にぶら下った

筋肉だけが僕の頼みだ

僕は赤くなる 僕は収縮する

足が上ってゆく

おお 僕は何処へ行く

大きく A が一回転して

僕が上になる

高くからの俯瞰注ふかん

ああ 両肩に柔軟な雲

この B という詩は、スポーツ選手の高度な技を描いたものではありません。おそらく作者自身の B 運動をもとに作品化したものでしょう。

① や ② は、空中でのシセイアを比喩的に表現したものです。また、 ③ は、その時視界を捉える「僕」のようすを表すものでしょう。

B に飛びついた作者は、腕を曲げ、足首を B に近づけ、顔を真っ赤にして、体を引き上げようとしています。重力に逆らったこの一連の動作に思わず力が入ります。しだいに足は、 B の地平線の上のぼっていきます。

④には、緊張から快感への橋渡しの意味もこめられています。大きく一回転して地平線の上に立つ僕。高い位置から、世界をナガめるとまるで世界をセイフクしたような気分です。

(萩原昌好編『少年少女のための日本名詩選集』より)

注 俯瞰 …… 高い所から見下ろし眺めること。

問一 二重線部ア〜エのカタカナは漢字に直し、漢字には読みを付けなさい。

問二 この詩の形式を次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 口語自由詩 イ 文語自由詩 ウ 口語定型詩 エ 文語定型詩

問三 空欄Aに入る言葉を詩中から抜き出して答えなさい。

問四 詩の最後の二行について答えなさい。

I ここに用いられている表現技法を答えなさい。

II 表現技法によって何を表現しようとしたのですか、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 視点の難しさに注目するように表している。

イ 「僕」と雲とを対照的に表している。

ウ 自然との一体感を強調して表している。

エ 世界を見おろす喜びを印象的に表している。

問五 空欄①〜④に、あてはまる言葉を詩中から抜き出して答えなさい。

問六 空欄Bにはこの詩の題名が入ります。漢字二字で答えなさい。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

にくきもの、急ぐ事ある折に来て、長言するまらうど。^①あなづりやすき人ならば、「後に。」とてもやりつべけれど、心恥づかしき人、いとにくくむつかし。

硯に髪の入りにて磨られたる。また、墨の中に、石のきしきしときしみ鳴りたる。

にはかにわづらふ人のあるに、^{注1}験者もとむるに、例ある所になくて、^②ほかに尋ね歩くほど、いと待ち遠に久しきに、からうじて待ちつけて、喜びながら^{注2}加持せさするに、このころ物の怪にあづかりて^③困じにけるにや、あるまますなはち眠り声なる、いとにくし。

眠たしと思ひて臥したるに、蚊の細声にわびしげに名のりて、顔のほどに^④飛び歩く。^⑤羽風さへその身のほどにあるこそ、いとにくけれ。

^{注3}鼻ひて誦文する。おほかた、人の家の^{注4}男主人ならでは高く鼻ひたる、いとにくし。

蚤もいとにくし。衣の下に躍り歩いて、もたぐるやうにする。犬のもろ声に^{注5}長々と鳴きあげたる、まがまがしくさへにくし。

開けて出で入る所、たてぬ人、いとにくし。

(『枕草子』より)

注1 験者 …………… 霊験によって災厄や病気を取り除く、修験道の行者。

2 加持 …………… 除災・治病のために験者が行う密教の祈祷。

3 鼻ひて誦文する …… 「鼻ひる」は、くしゃみをする。「誦文す」は、呪文を唱える。くしゃみは不吉なこととされており、すぐに呪文を唱える習慣があった。

問一 二重線部 a、c の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二 波線部 A、C の意味として最も適切なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|--------|---------|----------|----------|----------|
| A まらうど | ア 家族 | イ 客 | ウ 験者 | エ 親友 |
| B にはかに | ア 急に | イ 無意識に | ウ 自然に | エ 勝手に |
| C もろ声 | ア 声を変えて | イ 声を震わせて | ウ 声をひそめて | エ 声をそろえて |

問三 傍線部①「あなづりやすき人」と対照的な語句を本文中から抜き出して答えなさい。

問四 傍線部②「ほかに尋ね歩くほど」とありますが、その理由を本文中から八字で抜き出して答えなさい。

問五 傍線部③「にくし」とは「氣にくわないもの」という意味ですが、そう思う理由を本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問六 傍線部④「飛び歩く」の主語を本文中から漢字一字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部⑤には、係り結びの法則が用いられています。どことどこが結びの関係になっていますか。抜き出して答えなさい。

問八 この文章における「にくきもの」に、あてはまらないものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- | |
|---------------------------------|
| ア 急ぐ用事があるときに客がやって来て、長話をしていくこと。 |
| イ 墨を磨るとき、墨の中に石が混じっていて、音をたてること。 |
| ウ 一家の男主人が、高く無遠慮なくしゃみをする事。 |
| エ 蚤がはねまわって、着物の下から着物を持ち上げようとする事。 |

問九 この作品のⅠ作者名とⅡジャンルを答えなさい。